

大患難期の前に起きる事

聖書フォーラム 福岡集会 特別セミナー
2020年5月16日

出典：“The Footsteps of the Messiah” Arnold G. Fruchtenbaum, TH.M., PH.D.

第一部

オリーブ山での弟子たちへの教え

マタイ24・25章を中心として

P.1 文脈の確認

- マタイ23章は、群衆を前にしての最後の教え
- その最後のことば 23：38～39
- あなたがたの家は荒れ果てたままに残される
- 「祝福あれ。主の御名によって来られる方に」とあなたがたが言うときまで
- イエスは神殿を去り、オリーブ山へ

P.1 オリーブ山での弟子たちへの教え

- 【 神殿の崩壊 】 の前兆
- 【 この世の終わり 】 の前兆
- 【 イエスの再臨 】 の前兆

P.2～3 用語の確認

- この世 = 今の時代
- 次の世、来るべき世 = メシアの王国
- この世の終わり = 大患難期（7年） + 移行準備期間
- 再臨 = イエス・キリストが地上に帰る
- 携挙 = 大患難期の前に、**教会の信者たち**が
天に挙げられること

信者の区分 4つ

- 旧約の信者たち
【使徒2章聖霊降臨】より前に死んだ信者たち
- 教会の信者たち・・・「イエスにある」
- 大患難期の信者たち
【教会の携挙】の後に信じた信者たち
- 千年王国の信者たち

P.4 神殿崩壊の預言と弟子たちの質問

- マタ 24 : 1 ~ 2 イエスが神殿崩壊を預言
- マタ 24 : 3 弟子たちが3つの質問

神殿崩壊はいつ？

イエスの再臨の前兆は？

この世の終わりの前兆は？

P.4 この世の終わりの前兆

- マタ 24 : 4 ~ 8
- 前兆ではないこと (2つ) 偽キリスト・局地的な戦争
- 前兆となること (3つ+そのほか)
 - 世界大戦
 - 飢饉
 - 地震
 - 疫病そのほか (ルカ 21 : 11)

P.4 神殿崩壊はいつか

- ルカ 21 : 12 ~ 19 その前に使徒たちへの迫害
- ルカ 21 : 20 ~ 24
- 前兆は、「エルサレムが軍隊に囲まれる」(20節)
- マタ 12 : 31 ~ 32 赦されない罪 = メシアを悪霊憑きとして拒否した罪 (マタ 12 : 24)
 - 当時のユダヤ人たちの世代に神のさばきが下る
 - エルサレム陥落と神殿崩壊 (紀元 70 年)

P.5 再臨の前兆① 大患難期

- マタ 24 : 9 ~ 14 大患難期の前半期
 - 14節 世界宣教
 - その担い手は、黙 7 : 3 ~ 8、14 : 4
- マタ 24 : 15 ~ 27 大患難期の後半期
 - 15節 荒らす憎むべきものが聖なる所に立つ
 - 28節 死体のある所に、はげたかが集まる

P.5 再臨の前兆② 暗黒・栄光

- 死体 = イスラエル、はげたか = 反キリスト軍
- マタ 24 : 29 ~ 30 イエスの再臨
- 「暗黒」が世界を覆う
- 「人の子のしるし」 = イエスの再臨の前兆
- 天に現れる → 「輝かしい栄光」
- 再臨の前兆 = 神の栄光が天に現れる

P.5 イスラエル民族の帰還

- マタ 24 : 31
- 大きなラッパの響き
- 天使たちが遣わされる
- 75日間の移行準備期間の中で起きる
- 天の果てから = 旧約の信者たちの復活
- イスラエル民族が帰還する → メシアの王国

P.5 いちじくの木のとえ

- マタ 24 : 32 ~ 35
- 新芽が出たら、夏は近い
- これらのことをすべて見たら = 特に 15 節の「荒らす憎むべきものが聖なる所に立つのを見たら」
- 人の子が戸口まで近づいている
= あと 3 年半で再臨

P.5 ~ 6 携挙に関する教え

- マタ 24 : 36 ~ 42
- 36 節冒頭「ただし」 → 「ところで」 話題転換
- 38 節 日常生活 = 大患難期の前
- 39 節 人の子の来る = 携挙
- 40 ~ 41 節 信者と不信者との区別
ひとりは取られ、ひとりは残される

地上から教会が携挙されると

- いったん地上から信者がいなくなる
- イスラエル民族の中から、14万4千人の青年男子がメシアを信じる（黙7：4、14：4）
- イスラエル民族の「初穂」（黙14：4）
- 彼らが大患難期の前半で世界宣教
- 多くの異邦人が信者となる（黙7：9）

P.6 5つの連続するたとえ話

- マコ13：33～37 門番
- マタ24：43～44 家の主人
- マタ24：45～51 忠実な僕と悪い僕
- マタ25：1～13 十人の娘
- マタ25：14～30 タラント

P.6 信者と不信者の区別

- 目をさます・用心する・忠実である←信仰ゆえに
- 忠実なしもべと悪いしもべ、賢い娘と愚かな娘
- 5つのたとえ話はすべて、信者と不信者の区別
- 共通の結論部分＝マタ25：31～46

大患難期を生き延びた異邦人を信者と不信者とに区別する：信仰はユダヤ人への対応に表れていた

第二部 時系列での推定配置 9つ

P.1 イスラエルの世界離散

- 第一次ローマ・ユダヤ戦役 紀元70年
エルサレム陥落・神殿崩壊
- 第二次ローマ・ユダヤ戦役 紀元135年
偽キリスト登場・地名は「パレスチナ」に
- イスラエル民族の世界離散
 - ・モーセの預言（申命記28：15～68、31：16～32：44）
- 申32：8～9 国々の領土は離散民の受け入れを織り込んで、神が定めておられる

P.1～5 9つの前兆 時系列

- A) 第一次世界大戦と第二次世界大戦
- B) イスラエルが再建国される
- C) エルサレムがユダヤ人の支配下になる
- D) 北方の連合軍がイスラエルに侵攻する
- E) 世界統一政府が樹立される
- F) 世界は10の地域に分けて統治される
- G) 反キリストが登場する
- H) 平和と見せかけの安全の期間
- I) 7年条約（大患難期の始まりでもある）



P.1 前兆A 世界大戦

- マタ 24 : 7
「民族は民族に、国は国に敵対して立ち上がる」
- メシアが来る前に起きる世界的な戦争を指す
- 第一次世界大戦→シオニズム運動
- 第二次世界大戦→イスラエル建国
- 世界大戦と共に飢饉と地震が頻発するようになる

P.1 前兆B イスラエルの再建国

- エゼ 20 : 33 ~ 38 不信仰の中での帰還
37節の「むち」は、大患難期
- エゼ 36 : 22 ~ 24 回心の前に帰還
25節で「きよめられる」・大患難期の末期
- 参考：イザヤ 11 : 11 ~ 12
2回目の帰還、信仰をもって

P.2 前兆C エルサレムの支配

- 大患難期にエルサレムで起きること

ダニ 9 : 27

マタ 24 : 15

Ⅱテサ 2 : 3~4

黙 11 : 1~2

- 1967年六日戦争で、エルサレムがユダヤ人の支配下に

P.2 前兆D 北方の連合軍①

- エゼ 38 : 1~6

- ゴグ = マゴグの地のリーダー

- 北の果て = ロシア

- 連合する国々 (アラブ諸国は参戦しない)

イラン、エチオピア、ソマリア

ドイツ、アルメニア

P.3 前兆D 北方の連合軍②

- エゼ38：7～9 イスラエルへ攻め入る
8節は、その時のイスラエルの状況
- エゼ38：10～13
ロシア側の目的は、略奪
- エゼ38：14～16
神の目的「わたしの聖なることを示す」

P.4 前兆D 北方の連合軍③

- エゼ38：17～23 連合軍が壊滅する
地震（19～20節）、内乱（21節）
疫病、流血、豪雨洪水、雹、火、硫黄（22節）
- エゼ39：1～6 壊滅の場所
イスラエルの山々（4節）
ロシア本国も（6節）

P.4 前兆D 北方の連合軍④

- エゼ39：7～8
神の名がほめたたえられる
- エゼ39：9～10
残留兵器の処理 7年
- エゼ39：11～16
戦死者の遺体回収 7か月

P.4 前兆E 世界統一政府の樹立

- ダニ7：23
「第四の国」 = ローマ帝国以降の国際社会
東西の分立 → 東のロシア没落により統一へ
「全土」 = 全世界

P.5 前兆F 10人の王

- ダニ7：24a
- 世界は10の地域に分割される
- 各地域に1人の王が立つ
- 10人の王による統治体制

P.5 前兆G 反キリストの登場

- 世界は10人の王によって地域別に統治
 - ある地域の1人の王のもとに
 - その地域の中の小国から
 - 反キリストが登場
- 正統な権威はないが、白馬の騎士のように
- Ⅱテサ2：1～3 主の日の前に起きるべきこと

P.5 前兆H 平和と見せかけの安全

- I テサ 5 : 1 ~ 3
- 1 節「それらがいつなのか」 = 携挙がいつなのか
- 携挙は、教会の信者たちを大患難期の前に地上から救い出すこと (I テサ 1 : 10、 5 : 4 ~ 5、 9)
- 主の日 (大患難期) は突如として来る
- 人々が「平和だ。安全だ」と言っているとき

P.5 前兆I 7 年条約

- ダニ 9 : 2 4 ~ 2 7
反キリストとイスラエルが、国家間の条約
- イザヤ 2 8 : 1 4 ~ 2 2
神の目からこの条約はどう見えるか
15 節「死と契約を結び、よみと同盟」
- これをもって、大患難期が始まる

P.6 3つの前兆 配置不明

- A) 暗黒（第1回目）
- B) 預言者エリヤが遣わされる
- C) 第三神殿

P.6 暗黒（第1回目）

- ヨエル2：31
- 暗黒
太陽、月、星の光が突然遮断されて、
地上にこれらの光が全く届かない状態
- 大患難期の前に1回、期間中に4回、計5回

P.6 預言者エリヤが遣わされる

- マラキ4：5～6
- 5節 主の日（大患難期）の前に
- 6節 エリヤの使命
ユダヤ人の家族の結びつきを回復すること

P.6 第三神殿が建設される

- 大患難期の前か、遅くとも大患難期の前半で
- 後半期のスタートは、
反キリストが、神殿に来る（マタ24：15）
自分を神と宣言（Ⅱテサ2：4）
神殿の前に自分の像を設置（ダニ9：27、黙11：2）
- 神は、この神殿を認めない（イザヤ66：1～6）